

博士論文紹介

チャトルコミュニケーションの 質的データ分析法に関する研究

斐品 正照
(東京国際大学)

論文タイトル：チャトルコミュニケーションの質的データ分析法に関する研究

氏名：斐品 正照

博士学位取得先：東北大学(大学院教育情報学教育部)

博士学位種別：博士(教育情報学)

学位取得年月日：2019(令和元)年10月9日

キーワード：チャトル型コミュニケーション, 質的分析, GTA, SCAT, 対話, 言及内容, 話題, 定量化

概要：本研究は、手紙や電子メール等に代表される、2人ないし少人数間で非同期かつ交互にメッセージを交わす形式のチャトル型のコミュニケーション(以下SC)を対象とした新しい質的分析手法の開発を目的としている。特に本論文では、断続的に取り交わされるSCのテキストデータから、各メッセージ中の言及内容とその種類別の件数、および、各メッセージを跨いで話題が繋がり展開する様相(話題展開、図1)とその種類別の件数を抽出して、異なる話者ペア間で交わされるSCの相違点や類似点の確認を可能とする分析手続きを明らかにした。

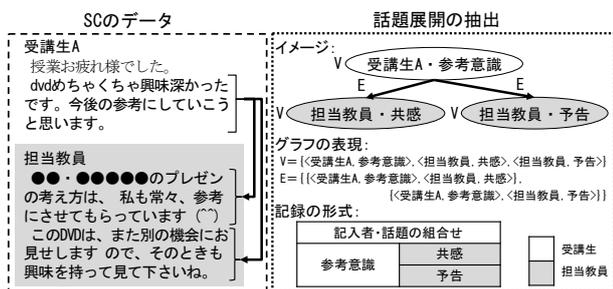


図1 SCのテキストデータからの話題展開の抽出

近年、例えば、授業でやりとりされる「大福帳」の様に、紙媒体や電子媒体を用いて、信頼関係の構築や学習動機づけ、個別指導等を目的に、受講生と教員との間で1対1のSCを行う機会が増えつつある。一方で、このSCにおける話者がどのような対話を要望し

て、そして、どのような対話が話者の意識やその後の行動に影響を及ぼす可能性があるのか等の詳細については、これまで必ずしも十分に確認されていない。その解決のためには、SCの内容を対象とした質的分析が必要となるが、GTAやSCAT等の既存の質的データ分析法の多くは、インタビューやアンケートを主な対象とし、その内容の中核的テーマや潜在する意識の抽出に主眼が置かれている。このため、コミュニケーション期間全体の発話を網羅的に対象とし、発話時期や話者による表現や話題の違いを明らかにすることは必ずしも想定されておらず、SCでの時間経過に伴う言及内容や話題展開の変化、複数の異なる話者ペア間での相違点や類似点を確認しようとする場合、既存手法をそのまま適用するには困難があった。

そこで本論文では、まず、授業での受講生と教員との間のSCを例に、当該SCの実施とその記録を行う電子媒体(iConversation)を新たに開発し、分析対象とするデータを取得した。次に、当該データの分析を通じてSCの質的分析に必要な要件を検討し、各メッセージ中の言及内容と、期間中の話題展開について、網羅的かつ明示性・省察性の高い分析、並びにその定量化を可能とする分析手法(KeyPaSS)を開発した。本論文で提案するKeyPaSSは、既存手法と同様に3種類のコーディング(オープン、軸足、選択)を経るが、既存手法と異なり、抽出する概念の定量化のために、オープンコーディングや選択コーディングにおいて、厳密なコード化による一貫した概念化を行う点に特徴がある。

iConversationにより収集したデータ(1セメスターの1クラス、受講生と教員のペア8組、合計151メッセージ)にKeyPaSSを適用した結果、期間全体の網羅的で一貫性のある概念として言及内容(合計1,493件)や話題展開(合計175件)を明らかにでき、また、抽出した言及内容や話題展開の各概念を定量化し、時間経過に伴う言及内容や話題展開の推移の確認や、異なる話者ペア間での比較が可能であることを確認している。これは、本論文で提案するKeyPaSSが、SCの外因と発話内容との関係や、その際の発話意図の推察に有効であることを示すものといえる。

公表論文：学位審査の際の主論文

(1) M. Hishina, K. Miike, N. Asaba, S. Murakami, Y. Ohkawa, T. Mitsuishi: "Study on Effects of

Text Decoration for a Text Based Communication Tool in Education”, Human-Computer Interaction (Part I)-The HCI International 2013 Conference Proceedings, pp. 565-574 (2013 年)

- (2) 斐品正照, 浅羽修丈, 大河雄一, 三石 大: “複数ペア分のシャトル型コミュニケーション・データに KeyPaSS を適用した質的分析の試み”, 教育システム情報学会研究報告, Vol. 33, no. 4, pp. 39-46 (2018 年), 他

現在の所属: 東京国際大学 商学部

論文入手先: 東北大学リポジトリ

抱負: KeyPaSS による分析により, SC の教育的な効果の検証を進めつつ, KeyPaSS 自体をさらに発展させたい.